

オールインワン通信

2021
VOL.4

マダニとSFTS情報

マダニとSFTS¹⁾²⁾

吸血の際に様々な病原体を伝播させるベクターとして知られ、日本には47～48種存在しているマダニは、寄生した野生動物宿主から病原体を得て、唾液腺を介して吸血時にヒトや犬、猫などの動物へと病原体を媒介しています。そのようなマダニが媒介する感染症の中にはライム病、日本紅斑熱、ダニ媒介性脳炎などの人獣共通感染症も含まれており、近年注目が集まっているSFTS(重症熱性血小板減少症候群)もそのうちの一つです。

SFTSは日本では2013年1月に初めて報告され、犬や猫といった愛玩動物からヒトへの直接感染事例も報告されています。

日本におけるSFTS患者の発生状況²⁾³⁾⁴⁾(図1、図2)

感染症発生動向調査において、国内ではこれまでに596人の患者が報告されており、本年は23例が報告されています(2021年4月28日時点)。

2020年までは日本での流行は西日本(静岡県より西)に限局していましたが、2021年に入ってから3月に静岡県で、そして6月には関東地方では初となる千葉県でのSFTS感染が確認されました。静岡県では3月に初のSFTS患者の確認された後、5月と6月にも1人ずつ(計3人)が確認されています(2021年6月10日時点)。

関東地方で初めて確認されたSFTS患者の1例⁴⁾(千葉県)

関東地方で初めて感染が確認されたSFTS患者の1例に関しては、過去12年分(242症例)のスクリーニング検査により検出された後方視的なSFTS患者です。この患者は70代男性で、2017年に発熱および発疹を主訴として受診しており、居住地は千葉県南房総地域の日本紅斑熱流行地でした。発症前の他県への移動歴がないこと、ダニの刺し口が確認されたことから日本紅斑熱が疑われましたが、各種検査の結果、日本紅斑熱陰性として管轄の保健所に報告されていました。

千葉県は関東地方では数少ない日本紅斑熱やつつが虫病といったリケッチア症の流行地であり、毎年患者が報告されていますが、これまでにSFTS患者は報告されていませんでした。今回、リケッチア症を疑われながらも診断のつかなかった患者に対する後方視的な調査でSFTS症例が確認されたことから、「ダニに刺されることが多く、日本紅斑熱等のリケッチア症が報告されている地域では、SFTS患者が潜在的に存在すること」が示唆されました。

獣医領域におけるSFTS⁵⁾⁶⁾

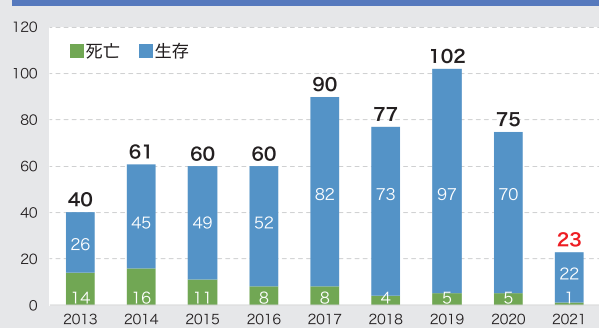
初めて愛玩動物におけるSFTS発症例が見つかったのは、猫で2017年4月、犬で2017年6月です。犬も猫もSFTSの症状はヒトとほぼ同じ症状であると考えられますが、猫においては黄疸が多いこと、下痢が少ないことがヒトと異なる臨床症状と考えられています。その致死率は犬で約40%、猫で約60%となっています。

また、SFTS罹患動物から飼い主そして獣医療従事者に感染した事例も見られています。ヒトにおけるSFTSの致死率は約30%にもなるため、SFTS感染が疑われる犬や猫の診療の際には獣医療従事者も後述のような十分な注意と対策が必要です。発症した動物の血液、唾液、便及び尿を含めた体液には感染性のあるウイルスが検出されているため、体液や排泄物を処理する際には次亜塩素酸ナトリウム含有消毒剤による処理やオートクレーブなどの加熱滅菌処理を行うことが必要です。診療の際にはPPE(個人用防護具)を必ず適切に着用し、診察台等は消毒用アルコールや次亜塩素酸ナトリウム含有消毒剤などで必ず消毒するようにしましょう。

現在、SFTSにはワクチン等の予防薬や有効な抗ウイルス薬等による特異的な治療法はありません。SFTS感染を完全に防ぐ方法はありませんが、SFTSはマダニが媒介する感染症であることから、犬や猫における日常的な対策としてマダニ駆除剤等の投与を確実にすることが重要である、との注意喚起が厚生労働省よりされています。動物病院における伴侶動物へのマダニ駆除剤の投与について指導を徹底することが動物やヒトへの感染リスク低減へ繋がります。

図1

ヒトのSFTS患者数の推移(2021年4月28日現在)



引用: 国立感染症研究所HP: 感染症情報「SFTS」

(注) 死亡数は感染症発生動向調査の届出時点での情報であることから、正確な死亡数及び産出される致死率はより高い可能性がある。また自治体による公表情報とは異なる場合がある。

図2

静岡以東でのヒトにおけるSFTS感染例

確認された都道府県	確認された月日	事例
静岡県	2021年3月	60歳代男性(症状: 発熱、筋肉痛、下痢) 2月28日: 38℃発熱し、医療機関を受診 3月4日: まだ解熱せず 3月5日: ダニが媒介する感染症を疑い検査 →SFTSウイルス検出
静岡県	2021年5月	高齢男性
静岡県	2021年6月	60歳代女性 5月下旬～6月上旬: マダニに咬まれる 6月7日: 静岡市内の医療機関を受診し入院
千葉県	2021年6月 (スクリーニング検査結果)	70歳代男性(症状: 発熱および発疹) 2017年: 日本紅斑熱を疑い検査→陰性 スクリーニング検査により検出された後方視的なSFTS患者

引用: 静岡県公式HP: 危機管理情報(健康福祉部 感染症対策局感染症対策課)

引用: 国立感染症研究所HP: 感染症情報「SFTS」

引用: 1) マダニの生態とマダニ媒介性細菌感染症 第71回日本衛生動物学会

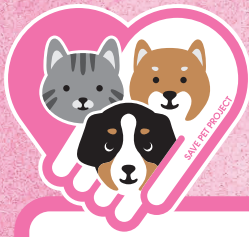
2) 国立感染症研究所HP: 感染症情報「SFTS」

3) 静岡県公式HP: 危機管理情報(健康福祉部 感染症対策局感染症対策課)

4) IASR, Vol. 42 p150-152: 2021年7月号

5) 厚生労働省HP: 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関するQ&A

6) 厚生労働省HP: 令和2年度動物由来感染症対策技術研修会「SFTS感染症の最新状況について」



オールインワン通信

2021
VOL.4

セーブペットプロジェクト

「あなたのアクションで、救える命がある。」

愛犬・愛猫への寄生虫対策が、保護犬・保護猫のしあわせにつながります。

愛知県で「特定非営利活動法人ファミリー」代表理事を務める熊崎純子さんにお話を伺いました。

幼い頃から犬や猫は家族の一員で大好きでした。自分が責任を持つ形で最初に飼ったのが、もうすぐ18歳になるトイ・プードルのゆずです。多くの愛犬家とSNSで繋がることで、「殺処分」や「保護活動」の存在を初めて知りました。その時の衝撃は、大変なものでした。

そんな時、元気だけが取り柄だった私が病気になる、入院生活の中で「私の生きた証って?」「社会に何か残せるだろうか?」と考え、犬のために出来ることをやってみよう!と心を決めました。そこで保健所に収容された犬を1頭預かり、その犬が譲渡できたら次に1頭預かる、個人で預かりボランティアを始めました。治療費も全て持ち出で、同時に何頭も預かることは出来ず、自分の活動に限界を感じました。それが、ファミリーを設立するきっかけです。

名古屋市では2021年3月で、6年連続犬の殺処分ゼロを達成しています。殺処分ゼロになる前年、犬の殺処分は約50頭、その中のほとんどは譲渡が難しい老犬だと聞き、支援を集め老犬シェルターをつくることにしました。老犬たちは終生飼育が前提ですが、奇跡が起きて老犬シェルターにいる犬を引き取りたいというお申し出も稀にあるんですよ。そんな時は神様が現れた!とボランティア一同で大騒ぎします。嬉しい一方、寂しさも感じるのですが。

コロナ禍でのSTAY HOMEでペットブームになり、お申込みや譲渡数が増えています。ただし、厳しい審査をパスしてくださる方でないと譲渡はできません。また心配なのは、この先犬猫を迎えた人たちが、通常勤務になった時です。飼い主と一緒にいることが当たり前だった犬猫たちが、急に毎日長時間のお留守番をすることでストレスや不安から「問題行動」を起こすこともあるかもしれません。飼育放棄されたりしないかとても心配です。数年後、日本全国で収容される犬猫が急増しないことを願うばかりです。

私たちの行動にはお金がついてまわります。SPPの医療費をいただけるようになり、犬猫たちのためにできるだけ医療を施したいと向き合っていますので、本当にありがたいです。



名古屋市では猫も殺処分ゼロを目指していますが、前年度の殺処分数は63頭でした。愛護センターと連携し、少しずつ殺処分ゼロに近づけるよう今後も努めて参ります。

あなたのアクションで、救える命がある。 SAVE PET PROJECT

「セーブペットプロジェクト」は、動物病院で処方されるベリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパンのノミ・マダニ駆除剤、犬・猫用オールインワン*寄生虫駆除剤、フィラリア症予防薬、そして犬用デンタルガム「オーラベツ」の売り上げの一部を、マイクロチップ普及や新しい家族を探す犬や猫たちのための医療費支援などに役立てる動物愛護活動です。寄生虫対策やデンタルケアをすることで、自分のペットだけでなく、行き場をなくした保護犬・保護猫たちにもあなたの愛情を届けることができます。

活動の詳細は動画でご紹介しています。ぜひご覧ください。

*フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、複数のお腹の虫の対策を1剤で対応



新しい活動紹介ムービーが
できました!

セーブペット

検索

